

基調報告

2022年度基調報告

認定特定非営利活動法人ファミリーハウスは 1991 年創立以来 31 年が経過しました。この間活動を支えてくださった会員の皆様をはじめ、多くの支援者のご理解、ご協力に心より御礼申し上げます。ファミリーハウスは 2021 年度、8 施設 15 室を運営し、225 家族、延べ 3,764 人の方々にご利用いただきました。ハウスを支えるボランティア、スタッフの皆様のご尽力に感謝申し上げます。

2021 年度の活動についてご報告申し上げます。

第一に、ハウス運営事業についてです。今年もコロナ禍から抜け出すことのできない一年でした。しかし、昨年からのノウハウを積み重ね、スタッフ、ボランティアの皆さんの工夫により感染者を一人も出すことなくハウスを運営することができました。

その中、2021 年 9 月末日をもって 2004 年に開設された「ぞうさんのおうち」が閉所しました。17 年間にわたり、ハウスを提供しハウスマネージャとして利用者さんをお迎えして下さった了源寺森下ご住職夫妻とご家族の皆様にごことより感謝申し上げます。閉所は建物の老朽化と周囲の環境の変化によるご夫妻のお申し出でしたが、いつも温かく利用者さんをお迎えいただきました。

東京都立墨東病院近くに開設予定だった「カピバラの家」はコロナ禍、開設が遅れておりますが、2022 年 4 月に契約を交わし準備が整い次第、開所予定となっております。

第二に、ファミリーハウス活動の啓発として、2021 年 11 月 20 日、『病気の子どもと家族のトータルケア～「小児患者体験調査報告書」から見える患者家族ニーズ～』と題したフォーラムをオンラインで開催しました。石丸紗恵先生(国立がん研究センター中央病院 小児腫瘍科 外来研究員)のご講演と、NPO ファミリーハウスの専門スタッフによる、近年のハウスの使われ方の実態報告を行い、「理想の家」の必要性を伝えました。全国から 90 人の皆さまが参加されました。(公益財団法人 JKA2021 年度競輪補助事業)また、2022 年 1 月 22 日にオンラインで行われた第 22 回 JHHH ネットワーク会議では、ファミリーハウスとこどもホスピスの違いを全国の仲間と共に話し合いました。重い病気の子どもを質的に支えていく多様なアプローチを確認することができました。

利用者は、患児が家族と滞在しながら治療や経過観察をハウスで過ごすというケースが増えています。利用者ひとりひとりのニーズを知りながら、ますます安心安全に滞在できるハウスであることを心掛けてまいります。2021 年度も支えていただいた皆様に感謝申し上げます。今後も何卒よろしく願い申し上げます。

理事長 江口 八千代

2021 年度事業報告

1. ハウス運営事業

(1)ハウス運営事業

2021 年度は、8 施設 15 部屋で運営を行った。利用実績は、225 家族、3,764 人、延べ 2,924 日。

前年度(201 家族、3,866 人、延べ 2,874 日)と比較し、感染予防のため面会制限が厳しく付き添い家族の交代がしづらい状況が続き、利用人数は減少したものの、利用家族数・日数とも増える結果となった。今年度もボランティア・スタッフの安全確保と利用者の協力を得て感染防止策を重ね、ハウス運営を維持することができた。

本法人活動開始以来の利用実績累計は、19,440 家族、延べ 176,487 日。

① 『ぞうさんのおうち』(台東区)クローズ

台東区にある「ぞうさんのおうち(1 室)」は 2004 年、ハウスオーナーの森下ご夫妻により開設。2DK のゆったりとした間取りで家族揃って滞在いただくことができた。国立がん研究センター中央病院や、東京女子医科大学病院等で治療する多くの患児とご家族を中心にご利用いただいたが、ハウスオーナーのご都合により 2021 年 9 月末日をもって活動を終了した。

② 『カピバラの家』(墨田区)開設決定

篤志家より提供の申し出を受け、2022 年 4 月より墨田区(錦糸町駅そば)に 1 家族用のハウスを開設する。一戸建てで、1 階が収納と共有スペース、2 階が住居スペースとなっている。駐車場もあり、自家用車で移動の患児も安心して利用できる環境が整えられ、国立がん研究センター中央病院や聖路加国際病院まで約 30 分で通うことができる。

(2)安全衛生について

① 寝具リネンのクリーニング

各ハウスの寝具リネン(布団カバー・シーツ・枕カバー)を月 2 回、業者とリネンボランティアの協力を得て交換。常時、清潔なリネンを提供することが出来た。

② リース寝具の提供

本年度も引き続き、良質なリース寝具を提供することが出来た。寝具一式(枕、敷布団、ベッドパット、厚・薄掛布団)は年 4 回洗浄されたものと定期的に交換する。また、感染症専門看護師のアドバイスで、利用者がチェックアウト後にはベッドパッドを洗濯し、次の新しい利用者を受入れるようにした。交換時には定期・企業ボランティアの協力を得て梱包や点検を行い、利用者への良好な衛生環境を維持することが出来た。

③ 洗濯機槽とエアコンフィルター清掃

毎月 1 回、各ハウス洗濯機槽、エアコンフィルターを清掃し、治療中の患児も安心して利用できる衛生的な環境維持に努めた。ハウスボランティアの地道な活動に支えられて、衛生を保つことが出来た。

④ ハウスの大掃除

日常の清掃は、利用者と定期のハウスボランティア・スタッフで行い、衛生に努めているが、コロナ禍で定期ボランティア・企業ボランティア共に、活動に参加できる方が大幅に減った。また感染対策のため、これまでのような大人数で大掃除を実施する形ではなく、少人数で毎回の活動で少しずつ日頃できない箇所を行い、ハウス内の安全衛生の維持に努めた。2021 年度は、延べ 19 回の大掃除を行い、合計 106 名にご協力いただいた。

企業ボランティアがハウスの活動に参加する際には、参加者の社員に感染症に関する質問用紙を提出いただき、これまでは活動前にハウスで一緒に見えていた活動紹介の DVD は各自事前に視聴していただいた。活動中は常時換気、マスクの着用、手洗いの徹底、互いの距離を取るなど、感染対策を取って活動を実施した。

○ぞうさんのおうち(4/23)

○ひつじさんのおうち(6/22、7/6、10/26、12/7、1/18、2/1、3/29)

○ひまわりのおうち(実施無し)

○うさぎさんのおうち、かちどき橋のおうち、おさかなのおうち (4/28、5/12、6/30、7/28、8/25、9/29、12/1、12/8、12/22、1/26、3/2)

⑤ 専門業者によるハウスクリーニング

今年度は助成を得て専門業者によるハウスクリーニングを3施設で実施した。エアコン、洗濯機、浴室など専門技術の必要な箇所及びベランダなど日常の清掃では出来ない箇所を中心に清掃を行った。大勢のボランティアが集まったので大掃除は感染予防の観点から自粛せざるを得ない状況が続いたため、専門的な清掃による衛生的な環境維持は利用者の大きな安心に繋がった。

(3)ハウス設備の充実

ファミリーハウスは、安いホテルではなく、利用者にとっての「病院近くのもうひとつのわが家」を運営することをミッションとしている。特に近年は、重篤な子どもたちの利用も多く、ハウスが家族とのかけがえのない時間を過ごす場所となっている。そのため、ハウスの安全や衛生をはじめ、各ご家族の状況とそれぞれのニーズに添った支援を募り、設備充実に努めた。

① 本・DVD・おもちゃ

個人や企業から、絵本・おもちゃなど多くの寄贈があった。企業から子どもたちに人気のキャラクターグッズやベッドの上でも楽しむことができる安全なおもちゃなどをご寄付いただき、患児をはじめ、きょうだい児、ご家族に大変喜ばれた。届いた本やおもちゃは、ボランティアで適宜除菌を行い清潔な状態で利用していただいた。

② 食品・生活用品など

企業や会報の呼びかけに応えた個人の方から、食品や日用品の寄付が多数あった。2021年度は、コロナ禍でハウスでの活動ができない代わりに物品寄付をという個人や企業が複数あった。また感染の心配があり買い物等の外出をできるだけ控える利用者が多い中で、食品のご寄付は経済的な負担の軽減に留まらず、安全で安心なハウスでの生活に繋がった。それらの物品寄付は、ボランティアの協力を得て各ハウスに配備した。

③ 利用者への季節の贈り物

企業、個人のボランティアの協力を得て、母の日やクリスマスなどに季節の品を贈ることができた。また、クリスマス時期は、子どもたちが大好きな本やおもちゃ、ひざかけや靴下、クリスマスのお菓子などが個人・企業・団体から多く届き、ボランティアの協力を得てラッピングを行った。患児の年齢や性別、好みによりプレゼントを仕分け、好きなものを自由に選べるよう準備した。毎月お花のアレンジメントを寄付下さった企業もあり、感染予防のため家族にも会えず病院とハウスとの行き来だけの生活の利用者に喜ばれた。お花は、免疫が下がった患児の安全に配慮し、安心して受け取っていただける方のみにお渡しした。

④ PC・電化製品など

個人や協力企業・助成団体より、タブレット、炊飯器などの家電製品等の備品の寄付及び助成があり、ハウスの環境をよりよくすることができた。タブレットは、利用者のチェックイン対応の際に、感染予防の点からハウス以外の場所にいるスタッフとのやりとりに活用した。感染リスクを抑えながらオンラインで利用者に対面する事で、より安心感を持ってハウスを利用してもらえる事に繋がった。また、入院治療の患児がハウスに滞在する際に母親の手料理を楽しみにしている事も多く、新しい炊飯器は非常に喜ばれた。

⑤ 防災用品

災害時に必要な防災用品や非常用食品を滞在想定人数にあわせてハウスに常備している。備蓄食や水は「ローリングストック」という普段消費する食品も備蓄食としてカウントする方式で管理。この方式は鮮度を保ちながら日常に近い食生活を送ることができ、定期的に在庫を確認することで消費期限切れを防ぐことができた。

(4) ボランティア関係報告

① ボランティア説明会

コロナ禍のため、今年度のボランティア説明会は全てオンラインで実施。延べ 17 回のボランティア説明会を開催した。1 年間の新規ボランティア登録者数は 21 名。ボランティア説明会では、まずファミリーハウスの活動を理解いただくこと、ボランティア希望者と運営側のニーズがマッチングすることの二点に重点を置いている。2022 年 3 月現在、登録ボランティアは 234 名となった。

② ハウスを支えるボランティア

コロナ禍で、ハウスで活動できる定期のボランティア、企業のワンデイボランティア共に大幅に減ったものの、運営する全てのハウスにおいて、ボランティアチームが定期的に活動することが出来た。ハウスキーピング(107 回、延べ 428 名)、リネン交換(89 回、延べ 111 名)、巡回活動(24 回、24 名)を定期的にも実施した。

【ルーティン】※ハウスキーピング、リネン交換、巡回活動の合計

ハウス名	延べ活動回数	延べ活動人数
ひつじさんのおうち	73	157
ぞうさんのおうち	7	14
ちいさいおうち	58	58
ひまわりのおうち	34	63
うさぎさん・かちどき橋・おさかなのおうち	48	271
合計	220 回	563 人

企業社員ボランティアとの協働では、合計 29 回、309 名が活動に参加した。うちハウスでの活動は、20 回、48 名。オンラインで企業社員と繋ぎ、活動紹介やプログラムを提供したオンライン・ボランティアは、9 回、延べ 261 名が参加。コロナ禍で、ハウスでの活動が難しい企業の社員の方々にも活動を紹介し、協力いただく機会を得た。

【スポット】

活動場所	延べ活動回数	延べ活動人数
ハウスでの活動	20	48
オンライン・ボランティア	9	261

③ イベントを支えるボランティア活動

コロナ禍で、これまで毎年開催していたイベントのほとんどが中止となった。以下のイベントは、昨年に引き続きオンライン配信でのコンサートを実施した。

・2021 年 12 月 21 日(金)Arabian Night @ 魚籃寺(於:元おさかなの家・港区)

④ 自宅で作る手仕事ボランティア活動

ハウスで必要なぞうきん、使い捨て布、クッションカバー、グリーティングカードなどを自宅で作るボランティアで協力いただいた。企業では、ハウスでの活動が難しい時期、社員が自宅からでも協力できるものと社内で広く呼びかけ、提供くださった所も複数あった。

⑤ IT 関係ボランティア

各ハウスに設置されているパソコン・Wi-Fi 等のメンテナンスを PC ボランティアの協力により行っているが、コロナ禍での活動は一時休止し、ハウスで活動するボランティアが代わりに最低限の対応を行った。PC ボランティアのメンバーは、11 名。

⑥ 事務関係ボランティア

経理処理のチェック、労務管理、会員管理、利用率の集計、お礼状の発送、ファミリーハウス通信の編集・発送、アニュアルレポートの編集、ウェブサイトやSNSの更新、各種デザイン関係の支援など、ボランティアの協力を得て行うことができた。感染予防対策のため事務所での活動人数と時間を制限し、できる限り在宅で活動できる工夫を行った。

⑦ ハウスの定期的な物品運搬ボランティア

企業又は個人からいただいた品物(生活用品、食料品等)をボランティアの協力を得ながら定期活動やハウス訪問時に届けた。さらに、1ヶ月に1~2回、車で運搬ボランティアの協力を得て、寄付された物品がすぐに利用者のもとへ届くようにハウスと事務局間において定期的に物品運搬を行っている。各ハウスでは毎月管理表で在庫をチェックすることで、各ハウスのニーズに添った物品を届けることができた。

(5)内部研修及びミーティング

① ハウスボランティアミーティング

コロナ禍、各ハウスともボランティアが集まっての定期的な活動を縮小。感染予防対策を徹底し、ボランティアミーティングや少人数での活動後の振り返り、意見交換は遠隔(電話、Line、Zoom等)で行った。

② プロジェクト進捗ミーティング

オンライン形式で、毎週金曜日にプロジェクトの進捗ミーティングを行った。新たなプロジェクトの検討や、感染状況を考慮しての変更検討等を重ね、情報共有をしながら連携して進めることができた。

③ ケースカンファレンス

オンライン形式で、毎週金曜日に利用者についてのケースカンファレンスを行った。

受付担当スタッフ、相談員(看護師)、ハウス担当スタッフを中心に、情報共有、検討事項の相談などを行った。また、助成事業により、事例検討会、安全衛生対策の取り組みも専門家アドバイザーの協力で実施継続している。

(6)企業研修、学生・他団体の研修受け入れ

① 2021年5月24日(月)日本光電工業株式会社 新入社員研修(オンライン講義)

② 2021年8月4日(水)昭和女子大学福祉社会学科生 研修4名

③ 2021年8月18日(水)昭和女子大学福祉社会学科生 研修4名

④ 2021年9月1日(水)昭和女子大学福祉社会学科生 研修4名

⑤ 2021年9月22日(水)昭和女子大学福祉社会学科生 研修4名

⑥ 2021年10月6日(水)東京慈恵医科大学医学部看護学科学部生3名の実習

⑦ 2021年10月7日(木)東京慈恵医科大学医学部看護学科学部生3名の実習(オンライン)

⑧ 2021年11月10日(木)東京慈恵医科大学大学院生1名の実習

⑨ 2021年11月23日(火)東京しごとセンターよりスタッフ体験受け入れ1名

⑩ 2021年12月21日(火)東京しごとセンターよりスタッフ体験受け入れ1名

2. 広報

(1)ファミリーハウス通信の発行

2021 年度も毎号ごとに編集会議を行い、年 4 回の発行を行った。質の高い紙面作りを目指し、昨年に引き続きプロボノの協力を得て工夫と改善を行った。会報を通じ、コロナ禍での活動の現状とハウスのニーズを伝えるとともに、寄付・ボランティアへの活動参加に繋がるような制作に努めた。また、正会員、後援会員、協力企業、関係団体、医療看護福祉系大学、専門職団体、医療機関、保健所等へ配布し、4 回合計で 7,665 部発送した。(前年発送部数:8,171 部)「通信」の編集・発送作業はボランティアの協力によって行われた。

(2)ハウス見学受け入れ

今年度も感染予防の観点から各ハウスの見学受け入れは、慎重に設定した。利用者のいない期間に、人数、時間制限を設け、換気をしながら見学を受け入れた。

勝どきエリア(うさぎさんのおうち、かちどき橋のおうち)では最新のハウス例として、9 月 8 日(水)慶應義塾大学看護医療学部生をはじめ、昭和女子大学福祉社会学科、東京慈恵医科大学大学院及び医学部看護学科等からも実習を兼ねて見学を受け入れた。また、行政や、医療従事者、他団体などの見学者を受け入れた。コロナ禍だからこそ、病院から近いハウスを必要とする患児と家族の状況やハウスのニーズを伝えることができた。

(3)ファミそ作り

料理研究家脇雅世ご夫妻のご協力により、『ファミそ〜ファミリーハウスのための味噌〜』作りが 8 年目を迎えた。オリジナルラベルのデータ作成は、前年に引き続き、ホスピタリティデザインを手がけるプロボノの寺澤知也氏にご協力いただいた。例年、熟成した味噌の容器詰めはボランティアを募り参加しているが、今年は感染予防から脇先生が引き受けてくださり、毎年楽しみにしている方々へお届けすることが出来た。

(4)ホームページ

2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日の期間のページビューは 43,294 件であった(なお、2020 年度のページビューは 57,321 件であった)。ボランティア活動などの情報を都度情報発信した。

(5)学会・講演等

- ① 2021 年 5 月 25 日(火)聖路加国際大学看護学科サービスラーニング講義
- ② 2021 年 7 月 14 日(水)パナソニック株式会社 NPO/NGO サポートファンド for SDGs 20 周年記念シンポジウム「プロボノのススメ〜NPO/NGO の組織基盤強化に企業人の力を役立てる〜」登壇
- ③ 2021 年 10 月 9 日(土)第 21 回中部小児がんトータルケア研究会に参加(オンライン)
- ④ 2021 年 10 月 30 日(土)・31 日(日)第 16 回全国病弱教育研究会全国大会(2021 年東京大会)参加(オンライン)
- ⑤ 2022 年 1 月 8 日(土)NPO サポートセンターの公開講座「10 代と 20 代のための NPO キャンパス第 5 回〜NPO の運営と戦略づくり〜」に登壇
- ⑥ 2022 年 2 月 11 日(金)第 4 回全国こどもホスピスサミット参加(オンライン)
- ⑦ 2022 年 2 月 13 日(日)小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の発展に資する研究成果報告会出席(オンライン)

(6)イベント

① Arabian Night@魚籃寺の開催

2021 年 12 月 20 日(月)、NPO グローヴィル主催、コスモエネルギーホールディングス株式会社の協賛で、魚籃寺の本堂にてチャリティコンサートが開催された。昨年に引き続き、オンライン生配信での開催となった。今年は、アラブの撥弦楽器ウード演奏とともに、アラブ音楽をお楽しみいただいた。

② 東京マラソン 2021 チャリティ

東京マラソン 2021 は 2022 年 3 月 6 日開催された。コロナ禍の影響で一般ランナーの参加は 3 年振り、また 65 歳以上のランナーには参加自粛要請が出されるなど制約の多い大会となったが、ファミリーハウスを支援するチャリティランナー約 50 名の方が出走された。これまで実施してきた沿道応援や交流会は自粛要請があり、中止となった。

(7) SNS (Twitter)

当会で初めての SNS の活用として twitter による情報発信を 2021 年 10 月 15 日に開始した。2022 年 3 月 31 日現在のフォロワー数は 64 である。

(8) クラウドファンディングプロジェクト

2022 年 1 月 29 日から 4 月 18 日まで、ファミリーハウス初のクラウドファンディングプロジェクト「絵本『やさしさの木の下で』をもう一度皆さまに読んでいただきたい！」を CAMPFIRE 社のソーシャルグッドのサイト「GoodMorning」上で実施した。本プロジェクトでは、寄付を通じて絵本『やさしさの木の下で』を全国の図書館・学校 285 ヶ所に寄贈予定。一人でも多くの方に手にしてもらい、みらいのファミリーハウスである「理想の家」の実現を理解し、共に支えて下さる支援者を募った。結果として 131 名、1,435,500 円の寄付が寄せられた。

3. 援助及び支援活動

(1) 相談事業

① 受付・電話相談

電話の総数は、2,830 件。電話相談問合せは、192 件。

② 利用者面談

利用者面談件数は、864 件。看護師、相談員などの専門職による訪問、電話での面談を行った。

③ 病院との連携

利用者を受け入れる際に、必要に応じ病院との連携を行った。医師、病棟看護師、ソーシャルワーカーなどの医療従事者とともに利用者の安全な滞在を確保した。また、長期利用者の事例について、医療従事者との振り返りを行った。「理想の家」については、国立がん研究センター中央病院と話し合いを行った。

(2) 援助支援活動

① 公益財団法人森村豊明会

利用料支払困難者に対し、公益財団法人森村豊明会より利用者助成積立基金を得て、減免を行った。

② 公益財団法人 JKA 公益財団法人 JKA「競輪公益資金」による助成金(子どもとその親が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業)を受け、ファミリーハウス・フォーラムを開催した。国立がん研究センター中央病院 石丸紗恵先生の基調講演から、子どもの病気の状態のみならず、年代や居住地域など、さまざまな状況に応じた患者と家族への個別のトータルケアの大切さを改めて学んだ。また、現在のハウスの使われ方を紹介し、「理想の家」の必要性を訴えた。

③ 積水ハウスマッチングプログラム

積水ハウスマッチングプログラムの助成金を受け、「新規ボランティア対象の活動紹介・研修動画の作成」プロジェクトを実施した。ボランティア募集動画 1 本と活動紹介(研修)動画 2 本を作成した。とくに、ボランティア募集動画は Youtube に掲載し、Facebook、インスタグラム、地域 SNS「ピアッツァ」の各メディアに掲載して再生回数は合計で 15 万回を超え、オンラインによる広報強化を図ることができた。

- ④ 一般財団法人日本メイスン財団
一般財団法人日本メイスン財団の助成金により、滞在施設の衛生環境向上のためのリース布団提供事業を実施し、各ハウスで衛生的な寝具環境を維持することができた。
- ⑤ 公益財団法人洲崎福祉財団
公益財団法人洲崎福祉財団の助成金(終末期の子どもたちを受け入れ可能にするファミリーハウス運営事業/3ヶ年)を受け、2年目の事業を実施した。病院近くのハウスで終末期の子どもを安全に受け入れるための環境整備及び3年目の完成に向けてマニュアル作成を進めた。専門家アドバイザーの協力を得て安全衛生対策の取り組みや他団体のインタビュー、事例検討会を行った。
- ⑥ 公益財団法人公益推進協会
公益財団法人公益推進協会の助成金により、利用者ケアプログラム事業を実施した。

4. その他

(1)全国ネットワークの取り組み

- ① 第22回JHHHネットワーク会議の開催
2022年1月22日、当法人主催で「ハウスと小児ホスピスの共通点・相違点を考えよう！」をテーマに第22回JHHHネットワーク会議をオンライン形式で開催した。国立成育医療研究センターもみじの家 ハウスマネージャ 内多勝康氏、公益社団法人こどものホスピスプロジェクト ゼネラルマネージャー 水谷綾氏、認定特定非営利活動法人ファミリーハウス 理事・事務局長 植田洋子による講演のあと、全国のハウス運営団体は同じように患者とその家族を支える活動をする約75名の参加者と意見交換する分科会を行った。
- ② 全国病弱教育研究会実行委員会に参加
第16回全国病弱教育研究会全国大会実行委員長に理事長(江口八千代)が就任。実行委員会に参加した。(4/18、7/8、8/6、9/23)

(2)ファミリーハウス・フォーラム

2021年11月20日、『病気の子どもと家族のトータルケア～「小児患者体験調査報告書」から見える患者家族ニーズ～』と題したフォーラムをオンラインで開催した。石丸紗恵先生(国立がん研究センター中央病院 小児腫瘍科 外来研究員、Princess Máxima Center for pediatric oncology, Trial and Data Center, Clinical research fellow)のご講演と、当法人の専門スタッフによる、近年のハウスの使われ方の実態報告を行い、「理想の家」の必要性を伝えた。全国から90人の皆さまに参加いただいた。(公益財団法人 JKA2021 年度競輪補助事業)

(3)新ハウス開設プロジェクト(理想の家プロジェクト)

病気の子どもと家族が抱える新しいニーズにも対応できる「新ハウス開設プロジェクト」(理想の家プロジェクト)として、定期的なプロジェクトミーティングや、東京都、厚生労働省、国立がん研究センター中央病院などの関係機関、専門家と情報交換・意見交換をするなど、築地市場跡地への新ハウス開設に向けて様々な活動に取り組んだ。

(4)内閣府休眠預金等活動審議会の専門委員

2019年6月、理事長江口八千代が内閣府休眠預金等活動審議会の専門委員に就任。休眠預金等活動審議会ワーキングに出席した。(6/25、10/27、2/14、2/17、3/22)

(5)公益財団法人パブリックリソース財団の助成審査委員

2021年9月、公益財団法人パブリックリソース財団の「上村清子&幸男結核予防基金」助成審査委員に、理事長江口八千代が就任。書類審査会に参加した。